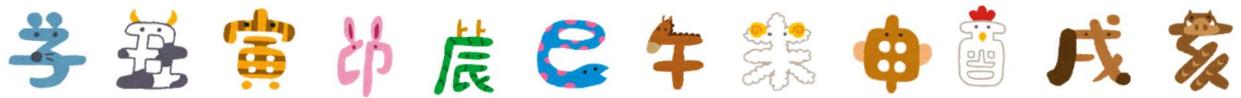


干支



パスファインダーとは、調べたいテーマに関する情報の探し方を紹介・提供する案内のことです。

「干支(えと)」とは、本来「十干(じっかん)」と「十二支(じゅうにし)」を組み合わせた、60年でひと回りする暦(こよみ)の仕組みのことです。今では、十二支のみを干支と呼んでいます。それでは、干支について調べてみましょう。

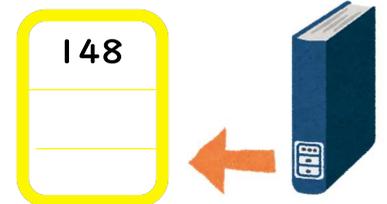
十干

きのえ きのと ひのえ ひのと つちのえ つちのと かのえ かのと みずのえ みずのと
甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸



図書館で探す

干支に関する本の請求記号(背表紙に貼ってあるラベルの番号)は
148【易占】 386【年中行事】 387【俗信】 449【暦】です。



OPAC(オーパック)で探してみる

水戸市立図書館 OPAC

OPACとは、図書館の蔵書をオンラインで検索できるシステムのことで

[水戸市立図書館のOPAC](#)で本を探してみましょう。



スマホ・タブレットからも利用できます。

*件名:資料のテーマを表す言葉、検索する便利なキーワード

キーワードに探したい本のタイトルや件名を入れて検索します。

あいだにスペースを入れると、いくつものキーワードで検索することができます。

干支 起源 で検索すると、干支の始まりの本が探せます。いろいろな単語を組み合わせで検索してみてください。

干支を紹介した [支援員だより](#) は
こちらから↓

パスファインダー
[タブレット・スマホ](#)からはこちらから↓



*本のタイトルの前の数字は、背ラベルの請求記号です

易占(えきせん)

148.4 『十二支～易・五行と日本の民俗～』 吉野 裕子 著 人文書院

易(えき)と陰陽(いんよう)五行(ごぎょう)をもとにした十二支の「はたらき」を、日本の神様のお祭りやいろいろな民間に伝承してきた風俗・習慣で明らかにしています。

148 『きみはなにどし?』 加納 信雄 文 U.G.サトー 絵 福音館書店

干支の始まりのほかに、アジアの干支についても書かれています。人間が時間をどうとらえてきたかも教えてくれます。

148.8 『干支ってなあ～に?』 鶴見 憲明 著 チクマ秀版社

中国から渡ってきて日本人の生活に定着した干支について、起源、変遷(へんせん)、それぞれについて調べています。

歴史

210 『日本十二支考～文化の時空を生きる～』 濱田 陽 著 中央公論新社

日本は、十二支で時間や空間を表してきました。十二支にまつわる様々な日本神話や伝説、習俗を紹介しています。

民俗誌

382.1 『日本人にとって干支とは何か～東洋の科学「十干・十二支」の謎を解く～』

武光 誠 著 河出書房新社

古代中国発祥(はっしょう)の干支は、どのように日本で広がったのか? 十二支占いや丙午(ひのえうま)の迷信がなぜ信じられてきたのか? 12の動物にはどんな意味があるのか? などの謎を解(と)き明かしていきます。

382 『十二支えほん』 谷山 彩子 作 あすなろ書房

「十二支」には12の動物が登場します。でも、どうして「12」なのでしょう? 意外と知らない、生まれ年の干支の豆知識もたくさん載っています。



俗信

387.9 『ひのえうま～江戸から令和の迷信と日本社会～』 吉川 徹 著 光文社

2026年は、60年に一度の丙午(ひのえうま)。1966年の丙午の年は、日本で生まれた子供の数が極端に減りました。これは、丙午にまつわる迷信のためでした。それは、どんな迷信だったのか?江戸時代にまでさかのぼって、探っています。

387.9 『ひのえうまに生まれて～300年の呪いを解く～』 酒井 順子 著 新潮社

日本最大の迷信「ひのえうま」の解体新書。史料・新聞・雑誌・小説・芝居等に残る、驚きの丙午エピソードを発掘しています。

暦

449.3 『十二支読本～暦と運勢のしくみを読み解く～』 稲田 義行 著 創元社

中国から伝わり、今なお日々の暮らしの中に息づく干支がどのようにして生まれ、発展・変遷(へんせん)してきたかを年月日・時刻・方位・吉凶や、旧暦・雑節(ざっせつ)など様々な切り口、テーマでていねいに解説しています。

449.3 『現代こよみ読み解き事典』 岡田 芳朗 編著 阿久根 未忠 編著 柏書房

十干十二支の由来だけでなく、暦についてのあれこれを知ることができます。

動物学

480 『十二支動物のヒミツ』 大高 成元・川口 幸男・中里 竜二 著 小学館

十二支の動物は、私たちの身近な動物ばかり。でも、意外と「ひみつ」があるのです。さあ、かわいい写真と楽しいイラストで見ていきましょう。

480 『もっと知りたい!十二支のひみつ』 大高 成元・川口 幸男・中里 竜二 著 小学館

十二支は昔から日本人に親しまれてきました。十二支ってなんだろう?十二支の動物のおかし話やことわざ、それにちょっぴりヒミツのお話がついています。

480.4 『十二支(えと)のことわざ事典』 加藤 迪男 編 日本地域社会研究所

十二支の動物たちにまつわる約 2200 のことわざを動物別に紹介。古くから言い伝えられている教訓的な名言や俗説、迷信なども取り上げています。



📖 漢字

704 『十二支のかたち』 柳 宗玄 著 岩波書店

中国の漢の時代や戦国時代に選ばれた十二支の動物。民衆の智恵とユーモアが結晶した動物の「かたち」101 点の魅力を味わい、なぜ十二支の漢字に十二の動物が組み合わせられたのかの謎にせまります。

おまけ

📖 十二支を題材にした小説

913 『矢上教授の「十二支考」』 森谷 明子 著 祥伝社

干支にちなむ神々に守られた街なのに、なぜ「丑(うし)」の方角にだけ神社がないのか…。万年講師の矢上教授が飄々(ひょうひょう)たる推理を繰り広げる、ユーモアたっぷりの本格ミステリ。

📖 絵本

Eネ 『ね、うし、とら…十二支のはなし』

エロール・ル・カイン エ ドロシー・バン・ウオコム ぶん へんみ まさなお やく ほるぷ出版

十二支の順番はどうしてできたのでしょうか。皇帝のまえでネズミとウシの知恵くらべが行われます。中国の民話を元にしたおはなしです。



インターネットで調べる

国立国会図書館 日本の暦

<https://www.ndl.go.jp/koyomi/index.html>

国立国会図書館の HP 内の「日本の暦」の「第三章 暦の中のことば」に干支についての項目があります。

国立天文台

<https://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi/wiki/B4B3BBD9.html>

暦 Wiki のページ内に干支について書かれています。

本は、水戸市立図書館で貸し出しできます。

